

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	都市型ホテル （総支配人）	販売量の動き	・百貨店、量販店の新規出店や競馬等イベントが重なり、好調であった。
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	来客数の動き	・佐賀城下ひなまつりが始まっているが、開催前から人通りが増えており、買物も盛んである。
		百貨店（販売促 進担当）	お客様の様子	・客の購買への意欲が感じられる。不景気の中で購買を抑制してきた客が、やっと購買を起こす気になっている。一方、富裕層とそうでない人の購買の違いが鮮明になっている。そうでない人は、価格訴求物を買うが、富裕層は金額に糸目をつけずに買物している。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・好天が続いたため、客数、買上点数が増えている。一方、BSE、鳥インフルエンザが影響する部門では、厳しい数字が出ている。
		スーパー（店 長）	単価の動き	・客数は大幅に伸びていないが、商品単価が上昇している。特に食品では、バレンタインデーのチョコレートの単価が上がり、生チョコを中心に高いものが売れている。惣菜、精肉その他でも美味しいもの、少し上質なもの、ヘルシーなもの、手作りの商品等が売れており、低単価一辺倒だった購買形態に変化がみられる。衣料品等ではブランド物が売れており、単価が少し上がっている。
		スーパー（企画 担当）	販売量の動き	・節分やバレンタイン等の催事等の商材が好調に動いたことや店舗改装休業に伴う家電や冬物衣料の処分セールにより、販売量が増加した。また、季節商材のいちごや鍋商材等が好調に動き、販売量及び客単価が大きく上昇した。来客数も好調であったことから、前年比、予算比ともに上回る見込みである。
		コンビニ（販売 促進担当）	販売量の動き	・うるう年の影響で量販店は前年比3.6%の伸びをみせた。コンビニも前年実績をキープしている。ただしローカルスーパーはかなり厳しく、売上が同28～30%減となっている。
		家電量販店（総 務担当）	単価の動き	・薄型テレビ、洗濯乾燥機等、高付加価値商品に動きが見られる。
		高級レストラン （専務）	販売量の動き	・九州新幹線開業という大きなイベントを控えて人の出入が多くなり、景気は良いようである。ただ、それ以外は悪い。
		その他飲食〔居 酒屋〕（店長）	来客数の動き	・3月13日に九州新幹線が部分開業するため、いくらかムードは出ている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・プロ野球やサッカーチームのキャンプに伴い、人の動きが昼夜ともに良い。	
	通信会社（営業 担当）	販売量の動き	・次世代携帯電話の新機種が始め、高値ながらも購入する客が多く、販売数が増えている。また新機種を見に来る客も多く、来客数も増えている。	
	テーマパーク （職員）	来客数の動き	・プロ野球1チーム、Jリーグ2チームが当地でキャンプを張っており、週末ごとに当社以外の市内ホテルも満館状態であるほか、球場もかなりにぎわっている。	
変わらない		商店街（代表 者）	お客様の様子	・単価が高い品物の動きが鈍い。
		商店街（代表 者）	単価の動き	・衣料品関連は春物をバーゲン価格で売っており、単価の下落が目立つ。一方で耐久消費財等は良質、高機能を求める傾向もみられ、高単価のものも動いている。
		商店街（組合職 員）	来客数の動き	・雪の影響で例年よりも来街者数が少ない。
		一般小売店〔生 花〕（経営者）	販売量の動き	・インターネットによる注文が徐々に増えてきた。
		百貨店（売場主 任）	来客数の動き	・駅前に同業の競合店がオープンしたことで来街者が増加し、自店にも買い回りがあると予想したが、今一つである。逆に夕刻の来客数は減少している。
		百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・客の現金の動きが非常に悪く、前年割れである。
		百貨店（営業担 当）	単価の動き	・食料品以外の各部門では、客単価、一品単価とも昨年をクリアできていない。

百貨店（営業担当）	販売量の動き	・気候のせい前半は売上、動員ともに落ち込んだものの、後半は動員を取り戻した。春物需要に回復の兆しが見えてきた。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・今月はうるう年で日曜日が1日多かったため、辛うじて前年並の売上となった。
百貨店（売場担当）	来客数の動き	・入店客数の動きをみると、入店客数は前年の92.1%、部門別では、食料品は催事の影響で好調、婦人服、子供服は不調となった。また、うるう年を加えても最終的に売上実績は前年割である。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・季節の変わり目であり、例年売上等も大きな動きがあるわけではないが、新しい春物等もヤング層からシニアまで例年以上に慎重な購買が目につく。
スーパー（経営者）	お客様の様子	・BSEや鳥インフルエンザ等の影響で、鶏肉、牛肉の消費が減っている。関連する野菜や調味料の動きも弱い。
スーパー（店長）	単価の動き	・客数は横ばい、客単価の低下傾向は依然として続いている。買物の様子を見ていると、無駄な買物は少ないという状況が続いている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・鳥インフルエンザの影響等で販売数量が落ちている。
スーパー（店長）	お客様の様子	・青果は比較的野菜の相場が上がったため、売上は前年の105%で推移しているが、肉類はBSE、鳥インフルエンザの影響から85%まで落ちている。衣料品は、暖冬の影響で売上が前年より悪い。
スーパー（店長）	単価の動き	・客数は安定しているが、一品単価が相変わらず下落している。特に衣料品は、暖冬のため冬物衣料の処分非常に苦戦している。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・米国BSEや鳥インフルエンザの影響下にある商品は落ち込んでいるが、全体的には販売動向は安定している。年度末に集中する競合他社の出店の影響で、パイの取り合いが続いている。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・毎月30品目ほどお得な価格で提供しているが、平均して通常商品の3倍以上売れている。客は少しでも安く必要なものを買う傾向にあり、景気の回復の兆しは見えるものの、まだまだ厳しい。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・酒類免許新規取得店舗が多数出ているが、酒類全体の売上の低迷により、直接単価アップにつながっていない。
衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・先日、マネキンを明るい春色にしたところ、入店客が増えた。申年の赤い色コーナーに赤いTシャツを置いたところ、衝動買いで客単価が上昇した。2～3か月前の客単価ともあまり差はない。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来客数が変わらない。ダイレクトメールや電話等、販促はしているが、販促には関係なく客の都合で動いている。
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・立ち上がりのプロパー商品に関しては、景気に関係ない裕福層は即座に買うが、一般的には単価の低い商品を狙っている。
衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・中旬から後半にかけて急に暖かくなり、冬物在庫処分が売れていない。
家電量販店（店員）	お客様の様子	・チラシ等安売の広告を出すと、朝早くから並んでも買うという行動が見られる。通常価格では買わない、もしくは高ければ買わないというはっきりとした姿勢が見られる。
乗用車販売店（管理担当）	競争相手の様子	・新車販売は非常に競合が激しい。採算が採れないほどの値引き競争で、売上が各社ともそう良くない。
乗用車販売店（販売担当）	単価の動き	・販売量は若干増加しているが、単価はここ半年変化していない。
その他専門店【医薬品】（従業員）	単価の動き	・客数は下げ止まったが、客単価は下がったままである。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・客数ももちろん、客単価もあまり良くなかった。
一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ライバル店も苦戦しており、厳しい状況が続いている。
一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今年は寒波が非常に厳しかったので、冬の間は極端に客足が鈍っている。ケーキ等があまり売れない。

		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・個人客の来店が増加している。
		都市型ホテル（副支配人）	単価の動き	・動きは活発化しているが、単価は依然として伸びない。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・鳥インフルエンザ等により東南アジアへの旅客が伸びず、海外部門の売上は前年の70%台である。
		旅行代理店（業務担当）	販売量の動き	・海外旅行は間際の出発の申込が多く、イラク情勢の不安が増して取扱が減少していた前年を上回るのがやっとの状況である。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・販売量を維持するための営業コストが増大している。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の申込等をみると、まだ安い方を選ぶ様子が見受けられる。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・ゴルフ場の来客数は前年並みであった。単価を若干下げると、来客数も若干増えている。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・金利等は下がっているが、戸建て住宅に関しては客の購買意欲が上がっていない。
やや悪くなっている		商店街（代表者）	来客数の動き	・近隣に百貨店がオープンした。オープン時は我々商店街にも客が流れたが、それ以降は来なくなった。客の流れが変わったことで我々の商店街の回遊性がなくなり、頭を悩ませている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・催事場や売出等、客は催し物には来るが、目的以外の買物はなく、そのまま帰るといった傾向がある。
		スーパー（店長）	単価の動き	・一点単価は前年比95%、買上点数は同98%、結果として客単価は同93%となり、買上点数、単価の下落が続いている。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・九州新幹線の相乗効果を期待していたが、あまりない。同業者からも客数、単価、売上が減っているという話が聞かれ、最悪である。
		家電量販店（企画担当）	お客様の様子	・薄型テレビ等、人気のある商品は良いが、それ以外の一般的な家電製品の動きが悪く、全体の売上は悪い。
		タクシー運転手	お客様の様子	・単価が下がった状態で、客数は横ばい状態であった。しかし、ここに来て客数の動きも悪く、景気は下向きである。
		通信会社（業務担当）	来客数の動き	・2月は卒業シーズンに伴いキャンペーンと新商品の発売があったにもかかわらず、客の来店客数が減少している。販売台数も新規・取替ともに例年のように増加してこない。
		通信会社（営業担当）	競争相手の様子	・競争の相手が先月から今月にかけて倒産もしくは倒産に近い状況に追い込まれている。これまでの借入金等が重なったものではあるが、やや悪い状態が続いている。
		美容室（店長）	競争相手の様子	・美容室が軒並みに多くなり、個性的な店作りをしないと取り残されてしまいそうである。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売量の動きは、前年同月比では変わらないが、客のニーズはあるのに成約に至らない。
悪くなっている		商店街（代表者）	販売量の動き	・天候不順により売上高が前年より2割近く落ちている。
		一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・他の衣料品店では高額商品が売れていないという話をよく耳にする。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・秋冬商戦は、9月から12月のプロパー期には暖冬の影響で冬物ファッションが動かなかった。セール期に入り、寒さが厳しくなったものの、新たな購買には時期が遅すぎるのか、顕著な買い増し行動は見られない。
		百貨店（営業企画担当）	来客数の動き	・大型量販店の出店と、福岡商圏の拡大（百貨店閉館売り尽くし等）の影響で、客数が前年比85.0%と大きく減少した。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・不景気のせいか自分の髪をきれいにするのが、皆、苦しいようである。
企業動向関連	良くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が増えている。半導体製造においては、残業と休日出勤で対応している。
	やや良くなっている	食料品製造業（専務）	受注量や販売量の動き	・積雪や冷え込みで冬物商品が思わぬ売行きを示した。

	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・官公庁の年度末が近いということもあり、特にオフィス家具の動きが活発である。毎年2～3月は需要期であるが、過去数年の中では今年の動きが最も良い。民間の商業施設の需要も続いており、売上は前年比2けた増の伸びが見込まれる。	
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連の動きは全般的に非常に活発である。同時に半導体装置関連、精密機械加工の動きも非常に活発になっている。しかし大手の半導体メーカーはまだ多少まだら模様があるようだ。全体的には動きが非常に良くなっている。	
	精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注増はまだまだ続いている。ただ、これが今後続くのかどうか不安な面もある。	
	不動産業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・土地購入案件が想定数を上回っている。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・酒の中でも焼酎メーカー、卸、小売店、量販店等での焼酎の売上がかなり大きくなっていて、それによる利益も大きい。全般的に酒屋は活性化している。	
	その他サービス業〔物品リース〕（役員）	取引先の様子	・来月の九州新幹線開業に向けて熊本県南部地域における開業準備が進んでいるが、ほんの一部ではあるが、受注増加の動きがみられる。	
変わらない	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主たる販売先の売上高は、前年とあまり変わらないが、客数の減少を客単価のアップで補っている。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は横ばい、もしくは増えている。価格競争は若干苦戦している。全体的な状況としては、上向きにはなっていないが悪くもなっていない。	
	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・百貨店の開店に伴い小売業関連のチラシの受注量が増えたが、その他の業種では振るわず、総体的には変化がない。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・単価が以前ほど高くないし、既に低くなる傾向がある。仕事の内容にしてみてもリストラ、合理化等の仕事が多い。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・クライアントからは、前向きな話が多く聞かれた。少しずつではあるが底を打って、若干先に明かりが見えてきた。	
	やや悪くなっている	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・鳥インフルエンザの影響で人への感染が心配され、極端な消費落ち込みになっている。特に生食関係は3～4割の落ち込みである。
農林水産業（従業者）		受注価格や販売価格の動き	・食肉関係はBSE、鳥インフルエンザ等により、景気も価格も低迷し、販売数量もかなり下がっている。	
建設業（総務担当）		受注量や販売量の動き	・受注件数が極端に減少し、すべての工事が完成した。現在小さな顧客を探しながらその日暮らしをしている。また、中国特需の影響で、鉄骨の価格が上昇し鉄骨を大量に使う工事の見積を受注をしているが、仮に受注できてもその価格で採算が取れるかどうか疑問である。	
悪くなっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・昨年11月の異常高温、年明けからの急激な冷え込みにより、県内農作物に病気の発生が多く見られ、収量が減少している。それにもかかわらず、価格は逡減している。	
	繊維工業（営業）	取引先の様子	・価格の低いものを生産していたメーカーや工場の倒産、整理が終わってきた。今度は価格の高いものを生産しているメーカーや工場の整理が始まっている。	
	輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・大型船の需要が多く、その結果鋼材あたりの値上がりが起こっている。また、新造船の受注がない。	
雇用関連		-	-	
	良くなっている			
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・年始に比べ求人数が倍増している。3月の先付けの求人もあるが、労働者派遣法改正に伴い求人や問い合わせが飛躍的に増えている。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	求人数の動き	・求人誌掲載企業数、求人件数とも上昇トレンドが見える。ただし、正社員を採用するには至らず、パート、アルバイトを活用する企業が目立っている。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数は対前年比3か月連続で減少している。前2か月は1けた台だったが、1月は13.5%減と2けた台になっている。1件当たりの解雇者数も減少傾向にある。	

	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・ 昨年の10月より連続して就職者数が増加している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・ デジタルカメラ、半導体生産等の好調な製造業を始め、ほとんどの主要産業からの新規求人数が前年同月比で増加を続けている。
	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・ 金融機関及び通販業界で、新年度社員採用、業務委託による複数、多人数の商談が活発化しつつある。一方、人材派遣会社の大口ユーザーである情報、通信、エレクトロニクス、家電販売業界は、春の商戦に向け求人やや活発化しつつある。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・ 賃金の低いパート職の求人が最近集まらない。求職者の選択肢が増えているのではないかと。
やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・ 最近の受注状況を見ると、人事異動に対応した案件や契約社員へのシフトに関する案件であり、景気としてはだんだん下降の方に向いている。
悪くなっている	-	-	-